

事業者部門会議の概要

1. テーマ 関西電力(株)とBEMSアグリゲータとの協業による電力ピーク対策

2. 目的

- ・東日本大震災以降、供給力不足に対応するため、需要側の節電、電力ピークカット等を促す仕組みが数多く用意され、その中で、電力会社からの要請に応じて、利用者が電力の使用量を削減する「デマンドレスポンス」の取組みも新たに用意された。
- ・デマンドレスポンスの取組みは始まったところであるが、今後、電力システム改革が進めば、電力料金の低減、エネルギー効率の向上、更には電力の安定供給に寄与する重要な機能となりえる。
- ・需給ひっ迫時に、関西電力がBEMSアグリゲータとの協業で実施した電力ピーク対策について、関係者が集まり議論することで、今後の取組みの進展に向けたきっかけとする。

3. 会議の開催

(1) 日時：平成26年5月16日(金)午後3時～午後5時

(2) 場所：大阪府咲洲庁舎38階会議室

(3) 出席者：

・関西電力(株)

・BEMSアグリゲータ

ES(株)、イオンディライト(株)、(株)ヴェリア・ラボラトリーズ、(株)エナリス、NKワークス(株)、(株)NTTファシリティーズ、(株)エービル、(株)環境経営戦略総研、(財)環境マネジメント研究所、(株)関電エネルギーソリューション、(株)グローバルエンジニアリング、(株)洗陽電機、ダイキン工業(株)、パナソニック(株)エコソリューションズ社、福島工業(株)

・ファシリテーター 株式会社カーボンオフ 竹若富三郎氏

(4) 概要

- ・関西電力(株)からBEMSアグリゲータとの協業による電力負荷調整の取組み(資料2-1)について説明があった。また、大阪府からBEMSアグリゲータへのアンケート調査結果(資料2-2)を報告した。
- ・その後、関西電力とBEMSアグリゲータとの協業によるピーク抑制の取組みの今後の進展に向けて意見交換を行った。

(関西電力による説明)

○取組み全般

- ・平成 24 年夏から実施していく中で、様々なご意見を頂戴しながら、負荷調整対象顧客の要件拡大、負荷調整時間単位の変更、基準電力の設定方法の変更など、ブラッシュアップしながら進めている。
- ・夏は一定のピーク抑制効果が確認できた。一方、冬の朝はなかなか難しい、また負荷調整は空調機器によるものが大半を占めているということがわかった。
- ・この取組みについては、節電のお願いに関する報道提供の中で特出しして紹介するなどのPRを行っている。
- ・今まではどちらかというと供給側で対応してきたが、これからは需要側の取組みが重要になると考えており、今後も制度面や取組み内容を検討していく。

○BEMSアグリゲータからの意見・要望に対して

- ・発動の時間については、電力の状況を見極めて判断しているため、どうしても直前の依頼となってしまう。事業者からの意見としては、事業者の業種・業態によって対応の可否が変わり、前日でないと難しいというものや、逆に、当日発動（3時間前）より短くても対応できるというものもある。
- ・基準電力を事業者ごとに設定して欲しいという意見もあるが、削減量を担保するため、事業者ごとではなく、関西電力が設計した基準電力の設定方法に基づいて各アグリゲータが必要削減を担っていただきたい（基準電力の設定方法は、アメリカでも事例があり、誤差率が低く、一定の合理性がある方法である。）。
- ・料金のインセンティブの水準は、関西電力の他のメニューと比較しても十分妥当なレベルと考えている。また、アグリゲータとの契約時に、実際に負荷抑制が可能な量として契約しているので、支払いには負荷量の上限値の設定を行っている。
- ・調整電力の拡大については、今夏から、契約電力 1,000kW 未満から 2,000kW 未満へ対象を拡大する。

(その他)

- ・この取組みの認知度向上と事業者の積極的参加を促すため、大阪府がホームページで参加事業者名を公表し、PRしていくことになった。